

乳腺外科研修プログラム

I プログラムの一般目標 (GIO)

乳腺疾患に関する基本的知識・診断法・処置法・基本手技を習得する。

II 行動目標 (SB0s)

1. 乳腺疾患の病歴聴取と遺伝性疾患への配慮、画像診断の読影、手術適応・化学療法適応の決定、手術術式の選択、インフォームドコンセント (IC) の取り方について学ぶ。
(経験すべき診察法・検査・手技) 胸部 (乳房・腋窩) の診察、マンモグラフィー検査、乳腺エコー検査
2. 周術期管理の基本 (ドレーン管理・リンパ浮腫予防・リハビリテーション等) を学ぶ。
(経験すべき診察法・検査・手技) ドレーンの管理、皮下リンパ液貯留の処置
3. 乳癌手術の実際、手術助手の役割、結紮・皮膚縫合の基本手技を学ぶ。
(経験すべき診察法・検査・手技) 皮膚縫合、皮弁作成、ドレーン留置

III 方略 (LS)

1. ①指導医または上級医とともに入院患者の担当医として、入院時の診察、手術部位マーキングを行い術前検査・画像診断結果、手術術式についてカンファレンスをおこなう。
②指導医・上級医とともに術前のインフォームドコンセント (IC) に同席する。
③指導医のもとで、外来初診患者の問診、診察、検査・画像所見を含むカルテ作成、必要な場合は検査の指示を行う。
2. ①指導医または上級医とともに入院患者の担当医として、術後のドレーン管理や処置を行う。
②指導医または上級医とともに入院患者の術前・術後の検査に携わる。
3. ①指導医・上級医とともに手術に参加し、助手を務める。第二助手から開始し、指導医が可能と判断できれば第一助手も行う。
②結紮・皮膚縫合の基本手技を指導医・上級医の指導下に修練する。
③指導医が基本技術の習得と第一助手の経験が十分と判断できれば、皮弁作成や皮膚縫合等を行う。
4. 担当した患者の1例について、術前検査から手術結果、疾患・治療についての考察についてプレゼンテーションする。この症例を乳腺外科症例としてレポート作成する。

IV 経験すべき疾患

1. 良性疾患 (乳腺症・線維腺腫等)
2. 悪性腫瘍 (乳癌)

V 評価 (EV)

1. PG-EPOC による評価を行う。

乳腺外科研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察
午後	生検・IC	手術	生検・IC	手術	小手術 生検カンファレンス